

## 平成30年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

## 1 目 的

- (1) 検査問題について検討し、今後の問題作成の改善に役立てる。  
 (2) 受験者の学習状況を把握し、中学校・高等学校の学習指導の参考とする。

## 2 学力検査

- (1) 前期選抜・・・国語，数学，英語  
 (2) 後期選抜・・・国語，社会，数学，理科，英語

## 3 分析方法

全日制課程の受験者のうち、前期選抜では、25校200人、後期選抜では、50校400人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

## 4 分析結果

- (1) 平均点について ※（ ）は昨年度の平均点

## イ 前期選抜

教科	国語	数学	英語	総点
平均	62.4 (53.0)	48.4 (50.8)	49.7 (63.3)	160.5 (167.1)

## ロ 後期選抜

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総点
平均	61.7 (60.8)	63.4 (58.3)	51.2 (45.4)	51.6 (55.3)	51.7 (64.0)	279.6 (283.7)

- (2) 得点分布

- イ 前期選抜・・・冊子4ページ  
 ロ 後期選抜・・・冊子28～29ページ

(3) 各教科の概況

【前期選抜】	
国語	話すことに関する事項及び言葉の特徴やきまりに関する事項については知識の定着が見られるが、文章の内容を的確に読み取り、読み取った内容を適切に表現する力には課題がある。
数学	基礎的な計算問題や確率の問題を解く力については定着が見られるが、グラフや図などから必要な情報を読み取り考察する力や既習事項を基に多面的に考える力には課題がある。
英語	コミュニケーション活動の中で用いられる基礎的・基本的な表現や会話の流れをつかむ問題の正答率が高いが、まとまった英文を書く力や英文の内容を的確に読み取り説明する力には課題がある。
【後期選抜】	
国語	漢字に関する事項や話し合うことに関する事項については知識の定着が見られるが、文章の前後の関係や内容を正確に読み取り、表現する力には課題がある。
社会	基礎的な知識を問う選択問題については正答率が高いが、与えられた資料から得られる情報を読み取り、整理する力や得られた情報を関連付けて考察し、適切に表現する力に課題がある。
数学	基礎的な計算力及び知識については定着が見られるが、条件の意味を正しく理解して考察する力や事象を数理的に捉え、式やグラフなどを活用しながら、多面的に考察する力に課題がある。
理科	例年に比べて基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率はやや低かった。また、実験結果を基に計算する力や既習事項を基に科学的に考察し、表現する力についても課題がある。
英語	基本的なコミュニケーション能力の定着は見られる一方、英文の内容を的確に読み取る力や既習の語句を用いて、情報や自分の考えを伝える力に課題がある。
各教科共通 (得点率・無答率)	基礎的・基本的な問題の正答率が高いが、思考力・判断力・表現力を要する問題の正答率・得点率が低く、無答率も高い傾向を示している。

※無答率：解答欄が空白であったものの割合